婦人と子ども

第六卷第七號

家庭幼稚園

先づ子供のある五六の家庭が組合つて、一つの幼稚園を起すとする、而して、其場所は、其組合の中で、廣い家があれば、其家と決めても宜ろしいし、又、今日は甲の家、明日は乙の家といふ風に、順々に一日〳〵に代へてもよし、或は又、一週間とか十日若くは一ヶ月毎に代へて行つてもよからうと思はれる。次きには保姆である、吾人の最も希望する所は、其組合のおつ母さん方が代る〳〵出て、一日五時間とか、三日間とか、働くと云ふことである、といふと、そんな呑氣なことは、吾々の家庭の妻にはやらせることが出來ないと云はれるかも知れない、然し、中流以上の家庭になれば之れ位の暇は充分にあるから、僕はそういふ方に御勸めするのである、然しそれも出來なければ保姆を雇ふても差支はない。

先づ、かういふ風に園場も出來、保姆も出來た、そこで組合の小供たちか、今日は誰さんの家、明日は誰さんの家と云ふ風に集まつて、今日は誰さんのお母さんが先生、明日は誰さんのお母さんが先生といふ樣になつて、そこて面白い、團欒的の幼稚園が出來ようと思ふ、是が即ち吾人の所謂家庭幼稚園である。此種の幼稚園が成立つた曉には普通幼稚園よりも種々の利益がある。第一、自分等の子供を、氣心のよく知れたお互の子供等と一所に置く所からして安心であるし、又先生といふのが、眞實の母たちだから各々十分の愛と責任とを以て其の任に當る、一つは家庭の事情が先生方に十分別つて居るから、保育に至極都合が宜しいと又衛生の上からいつても、誠に都合がよからうと思はれる、私は是非此種の家庭幼稚園の設置を皆さんに願ふのであります。併し此お願ひは決して私が突飛な事を考へ出したのではなくて、外國には澤山に例のあることで、且つ効績の明かな事でありますから、何うかして之を各地に盛に實現したいと思ひます。

（牧羊）